

2013 年度 労働条件分科会における年度目標の中間評価について

2013 年度の目標として労働条件分科会において設定した年度目標について、当該分科会が実施した中間的な自己評価の結果は、概ね以下のとおりである。

※ 中間評価は 2013 年 11 月末時点で把握できる直近の各種指標に基づいて行った。

(労働条件分科会において設定された年度目標の動向)

○ 年次有給休暇取得率について (2013 年度目標 : 53.9%)

2013 年調査(調査対象は 2012 年)では、年次有給休暇取得率は 47.1%となり、前回調査(49.3%)から 2.2 ポイント低下した。

年次有給休暇取得率が低下したことを踏まえ、より一層の取組が必要となることから、平成 26 年度については、企業や労働者が働き方・休み方の現状や課題を自主的に評価できる「働き方・休み方改善指標」の活用方策の検討や、この指標の活用に関する好事例の収集・分析を行うこと、「地域の特性を活かした休暇取得促進のための環境整備事業」の拡充等を行うことにより、年次有給休暇の取得促進を図ることを現在検討している。

○ 週労働時間 60 時間以上の雇用者の割合について (2013 年度目標 : 8.6%)

2013 年 1 月から 10 月までにおける週労働時間 60 時間以上の雇用者の割合は 8.9%となり、前年同期(9.2%)と比べて 0.3 ポイント低下した。